

**研究主題 「自己を見つめ、自己の生き方についての
考えを深める児童の育成」**

～語る・論じ合う授業実践を通して～

熊谷市立江南北学校

1 研究主題の設定理由

本校には、自分の思いや考えがあっても、それを他者に伝えることに躊躇する児童が多いことが各種調査の結果から明らかになっている。

そこでまず、一人一人の児童が教材の内容を自分自身の問題と捉えて真摯に向き合うことによって、自分なりの思いや考えを確かにもてるようにしたいと考えた。その上で、その思いや考えについて、他者に躊躇なく語ったり、他者と論じ合ったりすることを通して、自己の生き方について深く考えられるようにしたいと考えた。

このような道筋を経て、「道德性を養う」という、道德科の目標に迫っていきたいと考えた。

2 研究の仮説

- (1) 児童が自身や他者の思いや考えと向き合える場、思いや考えをより多面的に多角的に膨らませる場、教材の内容を自分の心に落とし込める場などを意図して導入することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。
- (2) 児童が自身の思いや考えを「見える化」できる環境、惑いなく学習を進めていける環境、常時道德性に触れられる環境を意図して整備することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。

3 研究の経過

時期	内 容
4月	・本年度の研究と研究主題の検討、研究の方向性と研究組織づくり
5月	・研修計画の検討、授業者の決定、専門部会による研修
6月	・第1回 校内授業研究会 研究授業 6年1組
7月	・第2回 校内授業研究会 研究授業 2年2組
8月	・校内道德研修会 十文字学園女子大学 教授 浅見哲也 様
9月	・「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」いのちの授業 日本赤十字病院 ・hyper-QU の実施
10月	・道德アンケートの実施・分析
11月	・1人1授業の実施（特支学級、4年、2年、1年 10月～12月）
12月	・第3回 校内授業研究会 研究授業 5年1組 ・hyper-QU の実施
1月	・第4回 校内授業研究会 研究授業 2年1組
2月	・第5回 校内授業研究会 研究授業 3年1組 ※実施予定
3月	・研究のまとめ（各部会の成果と課題、来年度の研究計画）※実施予定

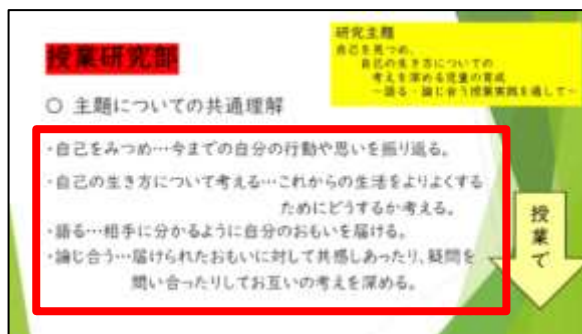
4 研究の内容

以下 TKD とは、T=特別の K=教科 D=道徳
 T=とことん考え K=懇々(こんこん)語り D=どんどんやろう！

(1) 授業部の取組

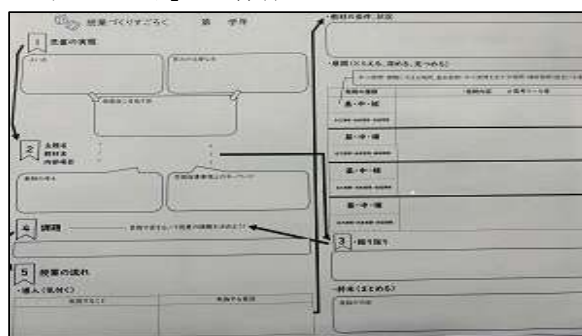
① 主題・副題についての共通理解と指導案の雛型作成

- 研究を進めていく中で、「目指す子供の学びの姿」を常に意識できるように、主題や副題の言葉を具体的に共通理解した。また、指導案の雛型を作成することで、本校の授業スタイルを確立した。



② 教材を分析するための「授業づくりすごろく」の作成

- 教材分析のための資料を作成した。児童の実態から教材を選定し、授業後の振り返りを考えながら発問を決めるなど、「進んで考えて戻ってみる」というイメージから「すごろく」とした。



③ 1人1授業、校内授業研究会の実施（彩の国の道徳含む）

- 全担任が本研究の意図を踏まえた授業を公開した。その授業において、本時のねらいに向けて語り・論じ合ったりする姿を目指した。様々な指導者に指導案検討から授業後の協議会まで、本校が目指す研究に向けてご指導いただいた。



1人1授業の様子



考えを伝えようとする姿



じっくり聞く姿



タブレットを活用して伝える姿

④ 「語る・論じ合う」ための手立て・・・「語り合いタイム」の実施

- 全教科で「語り合いタイム」を実施した。また、朝の会や帰りの会でもテーマを決めて葛藤する思いを伝え合う「語り合いタイム」を実施した。思いを伝え合うために「伝える話型」と「聴くあいづちシート」を作成したことで、躊躇なく自分の考えや思いを相手に伝えられるようにした。



お互いの思いを伝え合う

(2) 環境部

- ① 道徳広場の充実児童が日々道徳と触れ合えるように、道徳広場を設置した。そこでは、自他の考えや学校の取組が見えるように工夫した。外国語での道徳に関する掲示物も作成し、充実した道徳広場を目指した。



ぼかぼかの木

- ・ぼかぼかの木

友達にしてもらって嬉しかったこと、自分が友達にしてあげられたことなどを実に書いて掲示した。貼り重ねていけるように工夫した。



木の葉の様子

- ・葛藤コーナーと TKD 集会

「あなたならどっち？」というテーマに沿って、自分だったらどちらを選ぶか理由を考えながらシールを貼る場



葛藤させた内容



シールを貼る姿

「葛藤コーナー」を設けた。そのコーナーを活かし、自分の思いや考えを相手に伝える「TKD 集会」を実施した。これは異学年と交流できる機会となった。



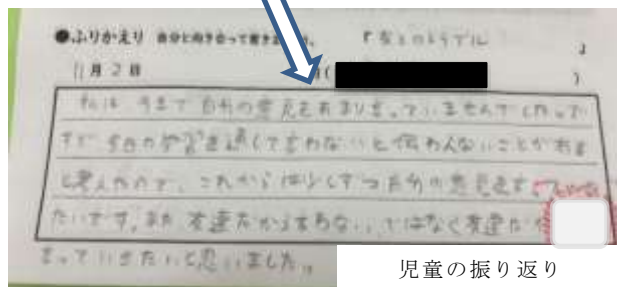
教室の TKD コーナー



TKD 集会の様子

- ② 教室の TKD コーナー

授業で活用したワークシートを掲示することで、他者の考えに触れられるように工夫した。児童は自分の考えと友達のことを比べながら見ることができた。



児童の振り返り

- ③ 職員室の TKD コーナー

授業での板書写真、授業のポイント、活用したワークシートを掲示することで、教師同士で学び合うことができた。また、全学年の別葉の掲示、終末で活用できる内容項目に即した資料集なども作成・掲示した。



常に学び合える環境

- ④ TKD 通信の発行

本研究について家庭に伝える手段として TKD 通信を発行した。各学年の授業の様子や児童の様子を伝える内容にした。通信には返信欄を設けて、保護者から意見や考えをいただけるように工夫した。



保護者から返信がある TKD 通信

令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(3) 調査部

- ① 道徳アンケートの実施、検証（県学力学習状況調査「規律ある態度」含む）
- ② Hyper-QUの実施、検証
- ③ 熊谷の子どもたちは、これができます！『4つの実践』と『3減運動』の実施、検証

- ・児童の実態調査と分析のためにアンケートを実施した。道徳アンケートでは内容項目に即した内容や規律ある態度について把握できるようにした。Hyper-QUは、よりよい学級づくりのための意識調査を行った。年2回実施し、児童一人一人の実態把握をし、自身の学級における課題をとらえ、改善に生かした。

(4) その他の取組

- ① 特別の教科 道徳の、頭文字を使った合言葉 TKD の決定
T…とことん考え K…懇々語り D…^{こんこん}どんどんやろう！
- ② 管理職による、保護者を対象とした道徳授業
- ③ 積極的授業公開・授業参観の実施
- ④ 教員自主学習会「ゆる会」の実施



5 研究の成果と課題

(1) これまでの研究の成果

- ・授業部の取組から、江南北小の道徳科の授業スタイルができ、本研究の趣旨を踏まえた授業を全学級が実践することができた。また、1人1授業では、全授業に指導者を要請し、指導案の検討から助言をいただけたことで、授業力向上につながった。
- ・環境部の取組から、日常生活で道徳に触れる環境が整備された。また、TKD通信やホームページから家庭や地域にも本研究を発信したり意見をいただいたりすることができた。
- ・調査部の取組から、アンケート調査の実施により児童の実態を明確に認知することができた。例えば規律ある態度に関する調査の項目では、「自分から挨拶をすることができる」と回答した児童が9割近くおり、課題視している教員との意識のギャップが分かり、本来の望ましい姿に近づけていくための方策が必要であることが分かった。

(2) 次年度への課題

- ・本校の授業スタイルの定着と、より研究主題実現に迫るための授業改善を実施していく。
- ・「語る・論じ合う」ための手立てをより明確にし、全教育活動で実践していくことで、道徳授業で活かせるようにする。
- ・家庭や地域に、本校の道徳教育についての理解と協力を広めて推進していく。
- ・道徳科で児童が学んだことを実生活に生かしている姿を見取り共有し、分析してよりよい実践につなげていく。